

特別展 残された楽園

ネイチャーフォトグラフィー

1994年6月8日(水)～7月17日(日)

●開館時間=午前9時～午後5時(入館は4時30分まで) ●休館日=6月12日(日)、13日(月)、20日(月)、27日(月)、7月4日(月)、10日(日)、11日(月)

●入館料=一般200円(160円) 小中学生100円(80円) ()内は20名以上の団体料金

●講演会=6月11日(土)午後2時～「アラスカを旅する」星野道夫(写真家)

アフリカウシガエル(アフリカ) フランス・ランティグ ©MINDEN PICTURES / ANIMALS & EARTH



主催=渋谷区立松濤美術館、東京新聞 企画協力=アニマルズ・アンド・アース 後援=環境庁 協賛=オリンパス/オリンパスカメラクラブ

渋谷区立松濤美術館

〒150 東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL.03-3465-9421 井の頭線「神泉駅」下車徒歩5分・「渋谷駅」下車徒歩15分

世界初“共生”をテーマにした写真展

ここ十年の内に出版界では、相ついで雑誌が特に自然を主体の雑誌が創刊され写真集が刊行され、年を追うごとに自然に対する認識や関心が高まりを見せています。また日常生活において、自然や生物の写真がカレンダー、ポスター、絵はがきにまとめられ、手軽に楽しむことが出来るようになりました。

機械文明の進行と平行し、地球規模での自然破壊、公害問題が深刻化してきております。1992年に開催された地球サミット以降、環境

保護、すなわち人間と自然との共生がこれから21世紀にかけて人類最大のテーマとなった事は今さら申すまでもありません。

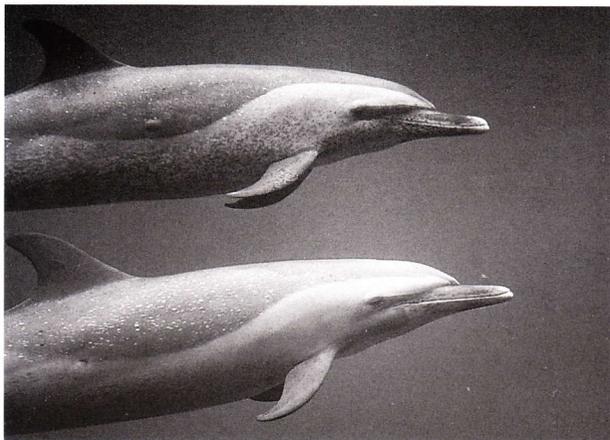
本展は、これらの時の流れを先取りした、自然がテーマの写真展としては最大規模のスケールと内容を誇る構成で行われます。同時に、世界初の試みでもあります。

本展に出品して下さった内外十名に及ぶ写真家たちは、動物・植物、海洋生物、先住民族などのジャンルで、ナショナル・ジオグラ

フィック誌を始めとした世界のジャーナリズムで活躍する写真界のリーダーです。展覧作品は厳選した206点で、本展で自然の美しさ、不思議さ、逞しさなど、地球生物の本来の在り方を紹介します。

きっと作品を通し、守らなければいけない、知っておかなければならない地球の楽園の存在が認識できるでしょう。

また、自然との共生を考える機会になることを願っています。



カスリイルカ(ビル・カートシンガー)



エゾシカ(久保敬親)



シンリンオオカミ(ジム・ブランデンバーグ)



グリズリー(星野道夫)

●展示作品の写真家

伊藤勝敏(日本) 関野吉晴(日本) BILL CURTSINGER ビル カートシンガー(アメリカ)
 大方洋二(日本) 星野道夫(日本) FLIP NICKLIN フリップ ニクリン(アメリカ)
 久保敬親(日本) 松香宏隆(日本) FRANS LANTING フランス ランティング(オランダ)
 JIM BRANDENBURG ジム ブランデンバーグ(アメリカ)

●映画会

6月18日(土)、7月2日(土) 午後2時～
 「動物たちの王国・アラスカから生中継」(出演:星野道夫)

●美術相談

6月19日(日) 午後2時～
 講師:大和屋巖(水彩画)、佐久間公憲(油絵)
 7月3日(日) 午後2時～
 講師:磯村敏之(油絵)、児崎昌子(水彩画)

